

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
令和4年度 第3回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和4年10月20日 午後7:10～午後8:40
- 2.開催場所 ZOOM会議
- 3.理事総数 12名
- 4.出席者数 5名（書面表決書3名）
出席者（山西哲郎、保原幸夫、森川貞夫、小林均、比嘉正樹 敬称略）
書面表決書（前河洋一、菅原由大、黒田伸 敬称略）
オブザーバー（進藤充 敬称略）
- 5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。
- 6.議事の経過の概要および議決の結果
- 第1号議案 前回理事会および年次総会（6月9日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったので承認されたものとする旨報告があった。
- 第2号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として小林均氏と保原幸夫氏が選出された。
- 第3号議案 唐澤剣也選手講演会について
山西理事長より 10月22日(土)に群馬大学荒牧キャンパスで開催することになった唐澤剣也選手講演会の内容について説明があった。
主催は当協会、共催は群馬大学陸上競技部、ランモード群馬で、「東京パラリンピックにいかに挑戦したか」というテーマで、唐澤選手および所属先であるSUBARU陸上競技部の小林伴走者、阿久津コーチに講演をして頂く。その後、実際のトレーニングの模様を見ていただくと共にブラインドランニングの体験もしていただく。
集客は関係者への口コミだけなので、何人ぐらい参加していただけるかはわからないが、参加費は資料代として500円徴集することにしてある。
当協会からは、企画をされた山西理事長、進藤氏の他に小林氏、比嘉氏、保原氏が参加予定である。
- 第4号議案 2022メルボルンマラソンについて
比嘉氏が作成した「2022メルボルンマラソン交流記」に沿って今年のメルボルンマラソンについての紹介があった。今年はコロナ明けの最初の大会ということもあり、日本事務局を通しての参加者は29名だった。そのうち、半数は現地在住の留学生、ワーホリであり、20代の方が多かったのが今年の特徴だった。日本からの参加者は60代、70代だったというのもこれまでと異なる点だった。
その結果、収支としては事業復活支援金477,250円を考慮しても578,375円の赤字となった。これは、収益分岐点である参加者200人にはほど遠い結果だったことに加え、円安、原油

高等による大幅な経費増加によるものである。

しかし、昨年から今年にかけて支給された「持続化給付金」「月次支援金」「一時支援金」「事業復活支援金」の趣旨に沿った使い方であると考え、来年以降、早期に収支改善が図れるよう知恵を絞っていきたいと考えている。

第5号議案 その他

今後の事業計画について、ブレーンストーミング的に自由討議を行った。

前回アイデア提案がされた「セカンドキャリアセミナー」については、実現に向けた実施計画書を早期に作成するとともに、過去に実施した国内における国際交流イベントの再開や近場の海外における新規交流企画等についてもアイデアを出していこうということになった。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時40分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和4年10月20日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長

山西 押印



議事録署名人

小林 均



議事録署名人

保原 章夫

